

Two-year outcome of first-line antiretroviral therapy among HIV-1 vertically infected children in Hanoi, Vietnam

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: 金沢大学
URL	http://hdl.handle.net/2297/40434

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



論文の内容要旨

主論文題名

Two-year outcome of first-line antiretroviral therapy among HIV-1 vertically infected children in Hanoi, Vietnam.

International Journal of STD & AIDS (印刷中)

専攻部門 環境医科学専攻ウイルス感染症制御学

氏 名 Hung Viet Pham (フン ヴィエット ファム)

(主任教員 市村 宏 教授)

低・中所得国において抗レトロウイルス療法 (ART) を受けることが出来るようになった HIV-1 感染者数が著明に増加してきている。このことは HIV-1 感染者に、より有効な治療の機会を提供しているが、これらの国々における ART 効果のモニタリングには解決すべき問題が残されている。本研究は、資源が限られている国々において一次 ART 中の HIV-1 感染児の治療効果と治療失敗を評価するための安価で効率の良い基準を検討することを目的とした。2008 年～2012 年の間に ART で 2 年以上追跡調査が可能であった 86 名の HIV-1 感染小児の後方視的解析を行なった。血中ウイルス量、これらの児の末梢血 CD4⁺T 細胞数、HIV-1 薬剤耐性関連アミノ酸変異を年 2 回モニターした。

結果は以下のようにまとめられる。

- (1) 86 名の HIV-1 感染小児のうち 68 名 (79.1%) が治療成功例 (ART 治療 2 年後の血中ウイルス量 (VL) <1,000 copies/ml) で、63 名 (73.3%) では VL が検出限界以下 (VL<400 copies/ml) であった。
- (2) 治療成功群と失敗群の間で、治療開始前の VL、CD4⁺T 細胞数や臨床ステージ、ART 開始年齢または処方薬に有意な差は認められなかった。
- (3) VL>5,000 copies/ml の児 14 名全員と VL 1,000-5,000 copies/ml の児 4 名のうち 1 名のウイルスに治療開始後 2 年以内に逆転写酵素阻害薬耐性変異が検出されたが、治療成功例 (VL <1,000 copies/ml) のウイルスには検出されなかった。
- (4) Y181C と M184V/I が、それぞれ最も高頻度に検出される非核酸系と核酸系逆転写酵素阻害薬耐性変異であった (86.7%)。

以上の結果から、開発途上国では治療開始後 24 ヶ月での血中ウイルス量測定が ART 失敗例を効率よく鑑別するのに有効なことが示唆された。